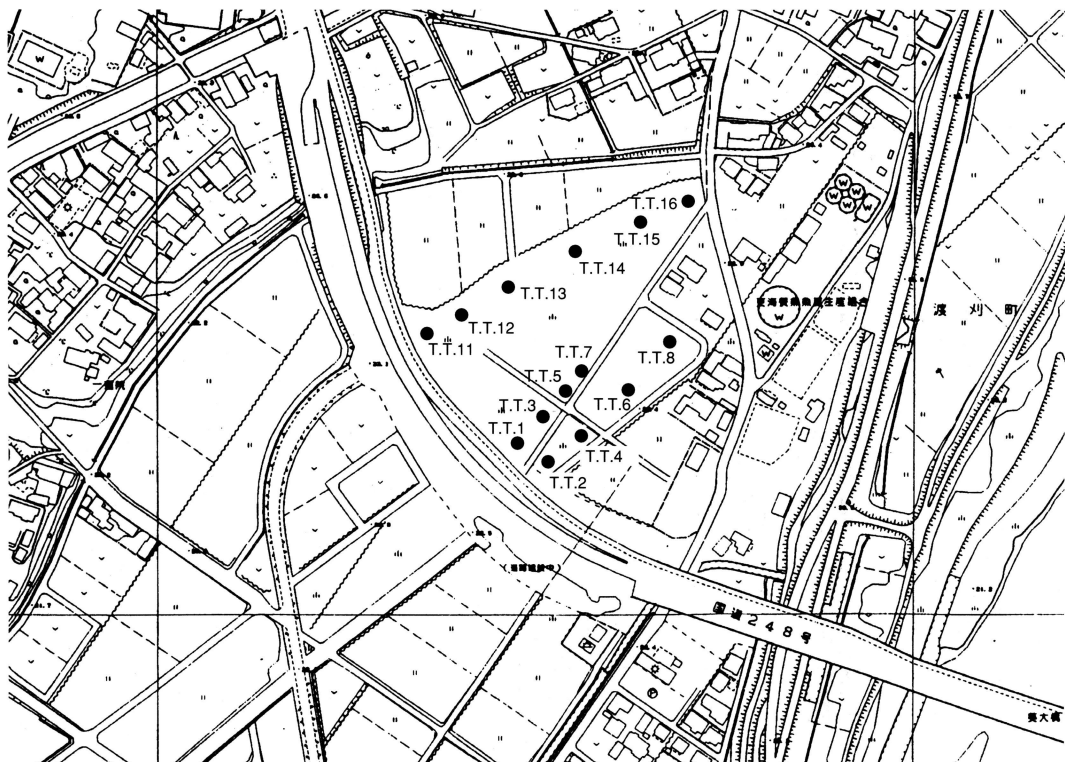


郷上北遺跡範囲確認調査

郷上北遺跡は豊田市鴛鴨町郷上・天神前から渡刈町川田にかけて存在し、碧海台地端から矢作川沖積地に広がる遺跡である。調査は第二東海自動車道予定地内と国道248号線が交差する地点を中心に実施した。調査方法は第二東海自動車道予定地内で8ヶ所（T.T.1～T.T.8）、国道248号線予定地内で6ヶ所（T.T.11～T.T.16）にそれぞれ範囲確認用トレンチを設定した。断面観察と平行して、各層位単位の遺構検出作業を行い、遺構の検出と遺物の出土状況を精査し、遺跡の性格とその範囲を確認することを主眼にした。なお調査面積は第二東海関係が200㎡で国道248号線関係が100㎡である。

調査の結果、鎌倉時代を中心とした遺構・遺物の広がりが見られたが、調査地点で大きく2つに区分できる。すなわち第二東海自動車道建設予定地内では、後世の著しい削平によって遺構が希薄であったが、一部には古墳時代の溝状遺構を検出することができた。一方で、碧海台地直下にあたる国道248号線建設予定地内では、ほぼ全域にわたって良好な遺構・遺物の出土が見られ、さらに包含層の堆積も確認でき、出土した遺物からその中心が鎌倉時代に所属するものと推定できる。したがって郷上北遺跡とした範囲内には広範囲に中世期を中心とした遺構群が存在し、第二東海自動車道建設予定地内では大きく削平され、国道248号線建設予定地内では良好に残存しているものと考えられる。

（赤塚次郎）



郷上北遺跡調査地点（1：5000）